

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	25	学校名	茨城県立勝田工業高等学校						課程	全日制		学 校 長 名		浜田 健志			
教 頭 名	清水 裕美										事務(室)長名		小西 清美				
教職員数	教諭	52	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		7	事務職員	4	技術職員等	3	計	81
生 徒 数	小 学 科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	総合工学科			231	9	215	13	185	10	0	0	631	32	18			

2 目指す学校像

教育活動全体を通して、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒、自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒。 ②グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒。 ③自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①地域との連携を図り、活力に満ちた工業高校づくりを目指すとともに、自ら課題を見つけ、自ら行動できる態度の育成。 ②基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自らの興味・関心・進路希望による科目選択学習を充実させ、個性を伸ばす教育の実践。 ③安全教育を実践し、安全で安心できる学校生活を実現するとともに、他人を思いやる豊かな心の育成。 ④ スポーツを奨励し、体力の向上と不屈の精神の錬磨に努める。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①ものづくりや工業的な分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒。 ②部活動を頑張り、3年間活動し心身を鍛錬し人間性を高められる生徒。 ③自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。 ④学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒。

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	・基礎学力向上指導は一定の成果を上げているが、学習指導更なる基礎学力の底上げと定着が必要。・授業や学習への取組が十分でない生徒が若干見受けられる。・系選択のためのガイダンスをより有意義なものにし、選択した系の専門性を高めた教科指導につなげたい。	・基礎学力向上のための効果的な指導方法を検討し実践する。・成績不振者に対する指導体制の徹底と補習等の方策を学校全体で行う。・授業規律の確立と授業時間の厳守に努め、ベル席運動の徹底を図る。・わかる授業の展開を図り、生徒主体の授業形態の工夫や充実を図る。・工業選択教科の検討や実習内容の見直しを通して専門性を高める。
進路指導	・令和6年度本校総合工学科卒業生約70%が就職(内定率100%)、30%が進学(大学進学者33人)している。生徒の進路意識を高め、希望する進路を実現するために、就職試験対策への取組の更なる充実、工夫が望まれる。企業との連携事業や企業実習等の内容は充実している。より充実した事前指導を行い生徒の意識を高めたい。	・年次毎に体系的なキャリア教育計画を立案し、意義ある進路指導につなげる。・生徒一人ひとりへの指導体制を確立し、希望する進路の実現を目指す。・企業見学会や企業実習等のさらなる充実と拡大を図り、対象年次との連携を深める(ものづくり人材育成委員会の積極的活用)。・具体的な就職試験対策を早期から計画的に実施する。・自己実現とキャリア形成のため、キャリア・パスポートの活用を図る。
生活指導	・頭髪・服装等指導の協力体制が維持されている。・生徒の問題行動による指導件数は少なくない。・自転車等による交通事故等が発生しているため登下校時等の校外の生活でも注意していきたい。	・生徒理解を踏まえた生徒指導の実践、職員の共通理解を図り、保護者からの信頼を得られる対応をとる。・教育活動全般を通して規範意識の醸成を図る。・挨拶指導、声かけ運動を通して、一人ひとり人の生徒の理解と把握に努める。
特別活動	・学校行事における生徒会活動は活発化しており、生徒会の自発的な活動も増加傾向である。・部活動加入率50%代であり、運動部・文化部とも活発に活動し、関東大会や全国大会に出場した。	・部活動の参加率の増加と、更に上位の大会を目指す意識の高揚を図る。・学校行事への生徒会の参画と生徒会の自主的活動の充実・拡大を図り、地域のイベントへも積極的に参加する。・生徒会が中心となって活動し各種の学校行事を成功させる。
働き方改革	・時間外勤務が恒常的に発生しており、週休日等の部活動指導等、教職員の負担は多い。・教職員は誇りややりがいを持って業務に取り組んでいるが、ワーク・ライフ・バランスを含めた時間管理や健康管理が必要。	・限られた時間や環境で成果をあげる工夫や体制構築を図る。・業務改善に向けた意識改革は進んでいるが、教職員の在校等時間を上限の範囲内(月45時間)とするために継続的で実効性の高い取組の計画と実践。

5 中期的目標

- 1 地域との連携を図り、活力に満ちた工業高校づくりを目指すとともに、自ら課題を見つけ、自ら行動できる態度の育成に努める。
- 2 基礎・基本の確実な定着を図るとともに自らの興味・関心・進路希望による科目選択学習を充実させ個性を伸ばす教育の実現に努める。
- 3 安全教育を実践し、安全で安心できる学校生活を実現するとともに、他人を思いやる豊かな心の育成に努める。
- 4 スポーツを奨励し、体力の向上と不屈の精神の錬磨に努める。
- 5 学校における働き方改革を推進し、業務改善・負担軽減策に取り組み複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。

別紙様式 1 (高)

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
個々の希望を実現する キャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を行うため、キャリア・パスポートの活用を通し勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%達成を目指す。
個性を生かしながら伸ばす 充実した教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎的資格の合格率向上と高度な資格取得への挑戦者及び合格者を増加させ、ジュニアマイスター取得 30 名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。
「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けた授業改善の実施	⑦主体的・対話的で深い学びの授業を目指し研究授業や、相互授業参観による授業改善を行う。 ⑧ICT を利用したわかる授業を目指した授業改善を行う。 ⑨生徒による授業アンケートで、「授業満足度」80%を目指す。
根幹となる豊かな心の育成 と安全教育の推進	⑩基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑪施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑫ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通した道徳教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。
部活動・特別活動の更なる 活性化と主体性の育成	⑬部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑭特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。
学校内外への充実した広報 活動の推進	⑮開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑯ P T A 行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことにより P T A 活動の活性化を図る。
教職員相互に業務内容の改善 と平準化に取組み、時間外勤務 縮減に向けた意識改革と行動 改革の推進	⑰校務分掌ごとに業務内容の重複を点検と整理に努め、教職員の在校時間の適切な把握と健康管理を推進する。 ⑱業務内容改善のために、指導の質の維持・向上を図りつつ継承、整理・統合、精選等を検討する。 ⑲授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた指導を行うため、地域や保護者に理解を得ながら、学校や教員が担う業務を整理し、I C T の有効活用により、学校の実態に即した情報の共有化や会議の効率化等に努める。 ⑳茨城県の部活動運営方針及び本校の部活動等に係る活動方針により、実施環境を構築する。